



感染防止の取り組み

新型コロナウイルス感染症による院内感染防止の取り組みについて、夏号でもご紹介しましたが、その後の取り組みは以下のとおりです。引き続き感染防止に取り組んでまいりますのでご協力をお願いします。

検温カメラの設置

病院玄関に検温カメラを設置しました。発熱症状がある患者さんにはお声かけのうえトリアージブースにご案内します。



発熱患者専用待合室



検温カメラ

飛沫防止対策

外来各受付には飛沫防止対策にビニールシートを設置していましたがアクリル製パネルに更新しました。採血室などにはロールカーテンを設置しました。

面会制限

感染拡大に伴い入院病棟は「面会禁止」としていましたが、9月19日より「面会制限」とし短時間や少人数の面会を可能としました。今後も感染状況に応じて変更となる可能性があります。ご協力をお願いします。

発熱患者専用待合室の設置

インフルエンザ流行に備えて、院外東側に発熱患者専用の待合室を設け、診察等も別室で行います。

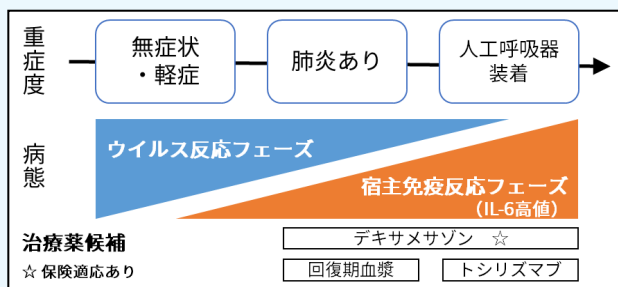
感染制御チーム (ICT) より

「新型コロナウイルス (COVID-19) の病態と治療薬の候補について」

リウマチ・膠原病内科 医長 (ICD) 茂久田 翔

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、病原ウイルス SARS-CoV-2 によって引き起こされる感染症であり、感染者の数%が血栓症や全身性の炎症病態による多臓器不全で死に至ります。現在も各国がその対応に追われており、世界中の医療関係者や研究者がその治療法を開発するために日夜奮闘しています。重症化した COVID-19 の最大の特徴は、発症後 1~2 週間で全身の免疫反応が強く現れる点です。病原ウイルス自体を減少させる治療法が開発が遅れているため、免疫抑制剤などを用いて宿主の免疫反応をいかにコントロールできるかが重要と考えられます。

2020 年 9 月時点において、死亡率を低下させる可能性のある治療候補 (ランダム化比較試験で検証) として、デキサメサゾン (ステロイド)、インターロイキン 6 (IL-6) 受容体を阻害するトシリズマブ (抗リウマチ薬)、感染した患者の回復期血漿の投与が報告されています。その多くが本邦未承認であり、今後も新規治療法が開発が待たれています。



呼吸器内科

診療科のご紹介

専門医による幅広い疾患の診療を提供します

常勤医4名と非常勤医3名で呼吸器疾患と内分泌・代謝疾患の診療を行っています。私たちの役割はかかりつけ医である開業医の先生と連携し、患者さんにとって敷居の低い専門医として相談いただける存在であるということだと考えています。

呼吸器内科専門医が慢性閉塞性肺疾患（COPD）をはじめとする慢性呼吸不全、間質性肺炎、気管支喘息、肺癌、肺炎など、呼吸器疾患全般の診療を行っています。肺癌は外科的治療を要する場合は、広島大学病院をはじめとした基幹病院にご紹介を含めた支援をしています。またHIPRACや緩和ケア病棟と連携して治療を行います。

専門外来では、睡眠時無呼吸外来、禁煙外来、毒ガス外来、アスベスト検診を実施しています。糖尿病専門医外来は非常勤医（広島大学病院の専門医）による外来診療を週3回（火・水・金の午前中）に実施しています。専門外来受診については予約制となっておりますので、地域医療連携室にお問い合わせください。



呼吸器内科 主任部長 峠岡 康幸 たおおか やすゆき

リウマチ・膠原病内科

リウマチ・膠原病疾患に適切な治療を

リウマチ・膠原病内科は、2017年4月より常勤医師体制となり、2020年現在は医師3人（常勤医師2名，非常勤医師1名）で診療を行っています。

当科の専門領域としている疾患は、関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、脊椎関節炎のほか、全身性エリテマトーデスや皮膚筋炎/多発性筋炎などの膠原病、血管炎症候群など多岐にわたります。

これらのいわゆるリウマチ・膠原病疾患は様々な症状を起こし得るものではありませんが、関節リウマチに代表されるように関節症状をきたす疾患が多い傾向にあります。そのため当科外来には関節痛や朝の手のこわばりなどの症状がある患者さんが毎週数多く県内外よりご紹介いただき受診されています。

問診と身体診察は勿論のこと、血液・尿検査、関節エコー検査、CT・MRI検査なども駆使しながら適切に診断し治療へ繋げていくことを心がけ、日々の診療に取り組んでいます。



リウマチ・膠原病内科 医長 茂久田 翔 もくだしょう
医長 荒木 慧 あらき けい

このページでは、職員の紹介も交えながら、JR広島病院での取り組みを皆さまへご紹介します。第4回は、薬剤部です。

薬剤部について

薬剤部は、薬剤師 17 名と 1 名の事務職員で構成されています。

私たちは患者さんを中心としたチーム医療の中で、より良い薬物療法がなされるよう多岐にわたる業務展開をしています。各病棟に配置している担当薬剤師は、持参薬の確認、副作用や薬物治療のモニタリング、カンファレンス等への積極的な参加を通して患者状況を把握し、個々の患者さんに合った処方設計に関わっています。また、患者さんには分かりやすい服薬説明を心がけています。



調剤室では医薬品の調剤や管理、注射薬の無菌調製、抗がん剤の調製など通して医薬品の品質を確保し、適正な在庫管理による医薬品の安定供給に努めています。

現在、外来患者さんの処方箋は、ほぼ院外処方となっていますが、地域の保険薬局の薬剤師とは、定期的に勉強会を開催して連携を深めています。また、チーム医療の一員として、院内感染予防対策チーム (ICT)・抗菌薬適正使用支援チーム (AST)・栄養サポートチーム (NST) や、DM 教室、心臓病教室での活動に加え、治験業務にも積極的に関わっています。

薬剤部の取り組み

医薬品の進歩はめざましく、情報が日々更新されていきます。私たち薬剤師は膨大な医薬品情報の中から必要となる必要情報をわかりやすく提供できるよう DI 活動にも力を入れていきたいと考えています。学会への参加、発表にも取り組んで、患者さんに有効で安全な薬物療法を提供できるよう研鑽し続けていきます。

薬剤師
前田 和彦



患者さんに安心して薬物治療を受けていただくために貢献します。

私たちは、薬剤師としての専門性を発揮し、有効で安全な薬物治療の提供に努めます。前田薬剤師は、広島県糖尿病療養指導士、リウマチ財団登録薬剤師の資格を持ち、今年は感染制御認定薬剤師の資格取得を目指して頑張っています。昨年度の優秀職員にも選ばれ、これからの薬剤部を背負う有望な職員の一人です。日々の業務に真摯に取り組む前田薬剤師に当院での仕事内容を伺いました。

—薬剤師を目指したきっかけを教えてください。

私は、もともと医療ドラマや医療ドキュメンタリー番組などを見るのが好きで、それがきっかけで医療系の仕事に興味を持つようになりました。そして、高校 2 年生の時の担任の先生からの勧めがあり薬剤師を目指すようになりました。

—当院の薬剤師としてどのようなお仕事をしていますか？

大きく分けて調剤業務と病棟業務の 2 つの業務を行っています。調剤業務では入院患者さんに対して処方された薬剤の調剤・監査などを行い、病棟業務では実際に患者さんと会話して薬剤の効能効果、副作用などの情報を提供したり、他職種から薬剤に関する相談を受けたり、医師への処方提案などを行っています。また、ICT (Infection Control Team)・AST (Antimicrobial Stewardship Team) の一員として、感染対策がすべての場所で正しく実践されるための取り組みや抗菌薬適正使用支援のための活動を行っています。その他、糖尿病教室や心臓病教室などの患者教室に従事しています。

—普段心がけていることを教えてください。

調剤業務では、処方せんに記載された通りに医薬品を調剤するだけでなく、医師の処方が医学的に妥当であるかの確認や、医薬品の相互作用や重複投与の防止などに注意しています。病棟業務では、薬の説明に対する患者さんの受け止め方は千差万別であり、きちんと服薬することは治療の一環として重要なので、丁寧な説明を心がけています。さらに、最先端の医学、薬学の知識と技術を身につけるために勉強を続けることが大切だと考えています。

—今後の目標、患者さんへのメッセージをお願いします。

医師、看護師、医療スタッフと連携し、個々の患者さんに最適な薬物治療が提供できるように努力して行きます。薬剤師としての専門性を活かせるよう努力を続け、患者さんの苦痛や不安を和らげるお手伝いが出来たらと思います。

連携医療機関のご紹介

高橋泌尿器科・皮ふ科クリニック

当院は本年「地域医療支援病院」の名称使用が承認され、今後より一層地域の医療機関、関係機関の皆さまと連携してまいり所存です。病院だよりにおいても連携医療機関のご紹介を行わせて頂きます。

今回は連携医療機関の「高橋泌尿器科・皮ふ科クリニック」をご紹介します。

お話は高橋泌尿器科・皮ふ科クリニックの院長である高橋 宏明先生に伺いました。

クリニックの特徴とJR広島病院との連携

当院は平成18年から東区温品で院長が泌尿器科を、副院長が皮膚科を専門として地域医療に携わっています。外来診療だけではなく、往診もさせていただいております。現在、温品や福田、馬木、小河原の近隣地区や牛田、戸坂、若草、府中町などへも伺わせていただいております。

開院当初より特に皮膚科部長先生、泌尿器科部長先生をはじめ、各科の先生方には画像診断や手術、さらには急な入院対応などに迅速的確に対応していただいております。



高橋 宏明 先生
(高橋泌尿器科・皮ふ科クリニック院長)

診療で大切にしていること

どなたにも丁寧でわかりやすい診療と説明をさせていただき、心身ともにサポートさせていただき、事を身上としております。

また、地域の先生方とも連携して適切に後方支援病院であるJR病院への橋渡しになればと考えています。

JR広島病院へ期待すること

東区唯一の総合病院として、後方支援を今後とも継続していただければと思います。



高橋泌尿器科・皮ふ科クリニック

院長：高橋 宏明

副院長：高橋 敦子

住所：〒732-0033 広島市東区温品7丁目10-11-18

電話：082-298-0511

ご支援の御礼

新型コロナウイルス感染症対策にあたり、各方面の皆様から物資等のご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

ご支援いただいた主な団体等

(株)アーバンセレモニー、(株)理舎、(株)天満屋、(株)セブンイレブン、エームサービス(株)、砂谷(株)、(株)ビックカメラ、広島県、広島市、市立病院機構、広島県医師会、広島市医師会、広島県看護連盟、JR西日本、JR西労組